



佐々木 興さん(77)
ちさとさん(73)
中田町・籠壇
1962(昭和37)年12月入籍

血液型が同じで男が話を聞くこと

★お互いの第一印象は
【興】仲人にお母さんの家さ連れて行かれたんだ。ちよこつと顔出したと思ったらば、たちまち奥さ引つ込んでいった。いいも悪いも分かんねがったね(笑)。
【ちさと】まだ学校出たばかりで幼かったが、おしよすがつたの(笑)。
★結婚当時の思い出は
【興】取り入れ終わって、種まきまで、近所の人と東京に出稼ぎさ行ってだんだんでは。高速道路建設をしたんだね。
【ちさと】お振る舞いの前に義母が亡くなって、女手は私だけだね。忙しかったけど、そいづが当たり前だったねえ。
★結婚後の思い出は
【2人】長男が結婚した後、2人でハワイ旅行に行ったこと。日本の海と違って、磯臭くなくてとてもきれいだったね。それと、子どもたちの子育ておでつてしたこと。3人預かった時は、大変だったねえ。今になれば、楽しかったね。
★現在の楽しみは
【興】庭いじりがな。
【ちさと】週1回のグラウンドゴルフだね。
★夫婦円満のコツは
【2人】血液型が同じなこと(笑)。男が「うんうん」つてうなづいて話を聞くことだね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「雨騒庵の画家、佐藤醇吉の魅力」

佐藤醇吉は、東京藝術大学を卒業。その性、清廉潔白にして無欲。他方、学問に対して好奇心旺盛、正則英語学校(現正則学園高校)で英語も修めた。これは、80歳を過ぎて取り組んだバルビゾン派の画家「コロ」の英語版翻訳に結実。戦禍を逃れ、東京から登米町に移住、娘の正子と共にここで生を閉じた。この人格者と類いまれな美貌の正子を慕って集う大人、学生も多かった。特に有能な高校生を歓迎し、夜な夜なギリシャ文化やフランス絵画に話は及んだ。その中の一人が今野正實氏(28年5月号「ふるさとへの



臼井 敏雄さん(79)
東京とよま会
登米町(鉄西区)出身

思い(寄稿)。借屋のかやぶき屋根は、絶えず雨漏りする。で雨騒庵。名付け親は、パケツにタライにと駆け回る下働きの文学少年今野氏だった。醇吉は、大阪公会堂天井画、牧野富太郎の植物画、宮内庁付き要人肖像画や平泉の復元図に関わったが、終生画壇に属するを好まず名譽を嫌った。変人の画家を探すにそう骨折ることはない。二風も変わった画家に高島野十郎がいる(東京帝国大学(現東京大学)農学部水産学科首席卒業。独学で画家に)。畑の中、掘って小屋にガス、水道、電気無し、ろうそく1本を克明に描くなどし80歳で世を辞した。二人は黒牛会で一緒だったが4年で解散。さて、漱石が、富士山自慢は滑稽の極みと冷淡な暴言、大いに盾突こう。和辻哲郎にして風土と人間の、九鬼周造にして言葉と人間の関わりに声を大にした。私は、やはり北上川を囲む田園の恵みに感謝の念を抱き続けたい。東京の面子から、登米のバッタ打ちに変わった時の土の感触は今でも忘れ難い。恵まれた縁故疎開者の一人であった。とよまパンザイ、登米市に栄えあれ。

おらほの産直

豊里地域産物活用施設「産直がんばる館」



「ちぢみホウレン草」や「ちぢみ雪菜」など、豊里ならではの産物を多く取りそろえています。

今月は、豊里地域産物活用施設「産直がんばる館」の志賀元一さんに話を伺いました。
Q 寒さが本格的になってきました。この時期の「がんばる館」の人気商品を教えてください。
A この季節は、葉物が充実しています。キャベツ、つぼみ菜、ちぢみホウレン草やちぢみ雪菜などを多く取りそろえています。ちぢみホウレン草とちぢみ雪菜は、豊里町の名産物で特に人気がありますね。
どちらも露地で栽培しており、外気にさらされ、寒さに耐えられるよう葉が厚くなり



「今日はホウレン草を買いにきました」と佐藤さん。

ギユツと縮みます。この葉が縮んだ状態から「ちぢみ」と呼ばれるようになりました。
一般的なホウレン草や雪菜よりやわらかく、栄養素が豊富で甘みがあるのでおひたしに向いています。また、あくが少ないのでスープやみそ汁にそのまま入れてもおいしく食べられます。2月ぐらいたまは店頭に並びますので、皆さん一度ご賞味ください。
葉物だけではなく、トマトも人気がありますね。うちでは、ほぼ1年を通して置いています。それと、ゴボウも売れ筋です。非常にやわらかく、千切りにして食べるととてもおいしいですよ。3月ぐらいたまは置いてあります。
この季節、豊里ならではの新鮮な野菜を、皆さんに食べてもらいたいですね。
【問い合わせ】豊里地域産物活用施設「産直がんばる館」
TEL 0225(76)6201

まちの文芸

短歌

作品募集!
●3月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、1月30日(月)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

初日の出孫や曾孫と手を合わせ
国も世界も安泰なれと
中年の去ると言うのに猿が出て
防災無線注意呼び掛く
一ゲート通過の声ぞ元氣なり
後期高齢ものにもせず
すれ違う心の若さ越えて今
小さき思い携え合はん
健やかに育てと願う祝い餅
孫は背負いてよろめき歩む

吉田まさよ (迫)
二ノ神武志 (迫)
佐々木栄一 (中田)
熊谷たかよ (中田)
石崎よしの (米山)

ひまごかく冬の夜空に二重まる
たびき仰ぎ見元氣もらひぬ
雨止みて夕陽が雲を赤く染め
サッカーの試合準備する曾孫
枯葉落ち柿に群がる鳥の声
獣は里へ人らをおそう
ティーブルに友の気づかい花飾り
八十七迎えし一人居にして
冬藤の小さき花房咲き揃ひ
年の始めを寿ぐやうに

千葉たかこ (米山)
阿部ふみ子 (米山)
佐藤ヒサ子 (米山)
佐藤よしの (石越)
阿部 洋子 (津山)

応募総数21作品